

テーマ：消費者物価（全国4月、東京都区部5月） 発表日：2007年5月25日（金）
 ～ 物価上昇はまだ先の話 ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	0.3	0.1	▲0.3	5.3	▲0.3	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	—	—	—	—	—	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 物価の基調には変化なし

4月の全国消費者物価指数は前年比▲0.1％（3月同▲0.3％）と前月からマイナス幅が縮小し、コンセンサス（同▲0.1％、レンジ▲0.2％～0.0％）通りとなった。後述するように5月東京都区部もコンセンサスと一致したことに加え、内容もほぼ予想されていた通りであり、意外感のない結果である。

全国消費者物価コアの内訳をみると、石油製品が前年比▲0.6％（3月同▲1.4％）と寄与を▲0.03pt縮小させた（CPIコアへの寄与度：3月▲0.06%pt→4月▲0.03%pt）ほか、昨年4月の診療報酬引き下げの影響が一巡したことで診療代が同+1.9％（3月同+0.1％）とプラス幅を拡大させたことも+0.04%pt押し上げに寄与した（寄与度：3月0.00%pt→4月+0.04%pt）。また、電気代も昨年の料金引き下げの裏が出たことでプラス寄与になった（寄与度：3月▲0.02%pt→4月+0.01%pt）。特殊要因（※）除くコアに関しては、3月に一時的に下落していた航空運賃がプラス寄与に転じたこと（CPIコアへの寄与度：3月▲0.04%pt→4月+0.01%pt）などが影響してマイナス幅が縮小している（CPIコアへの寄与度：3月▲0.23%pt→4月▲0.11%pt）。

4月のCPIコアは久しぶりにマイナス幅が縮小したのだが、これをもって物価上昇圧力の強まりを連想するのは時期尚早だろう。4月は診療代や電気代等、制度要因による押し上げが多かったにもかかわらず、プラス圏に浮上するには至らなかった。4月は料金改定が集中する月であることから、サービス価格を中心に改善がみられるのではという予想も以前は多かったのだが、実際にはそうした動きはかなり限定的だったようだ。特殊要因除くコアでみても小幅マイナスの状態が続いており、物価の基調の弱さにまだ変化はみられていない。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信料、移動電話通信料、

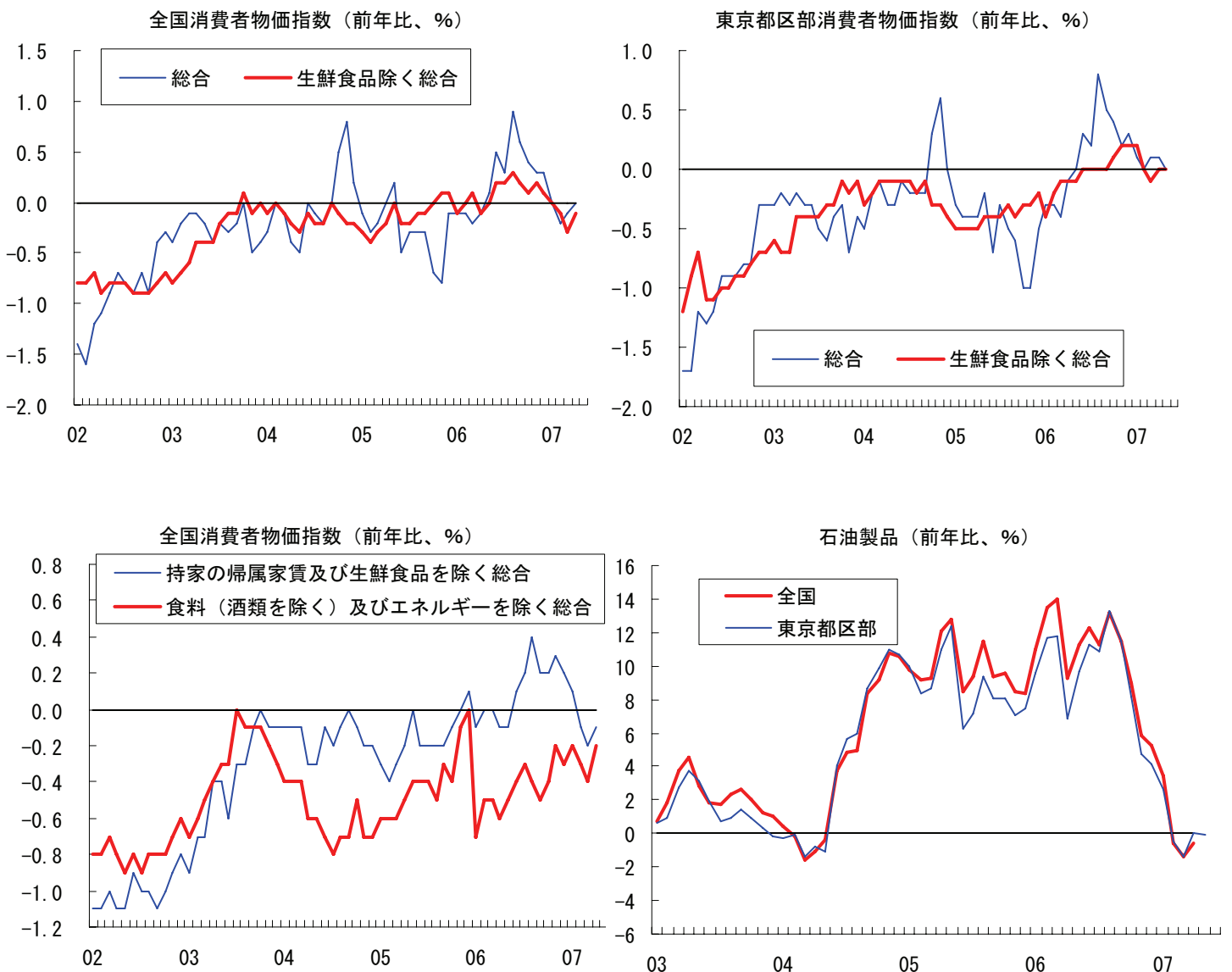
たばこを特殊要因としている。

○ 5月も小幅マイナスの見込み

5月の東京都区部消費者物価指数は前年比横ばい（4月同横ばい）と前月から変わらず、コンセンサス通りとなった。特に大きな動きはなく、前月とほぼ同じ内容である。特殊要因除くコアもほぼ前月並みである（CPIコアへの寄与度：4月▲0.09%pt→5月▲0.08%pt）。なお、石油製品価格は前月比では大きく上昇したが、昨年5月にも急上昇していたため、前年比で見ればほとんど変わらなかった（4月前年比0.0%→5月同▲0.1%）。

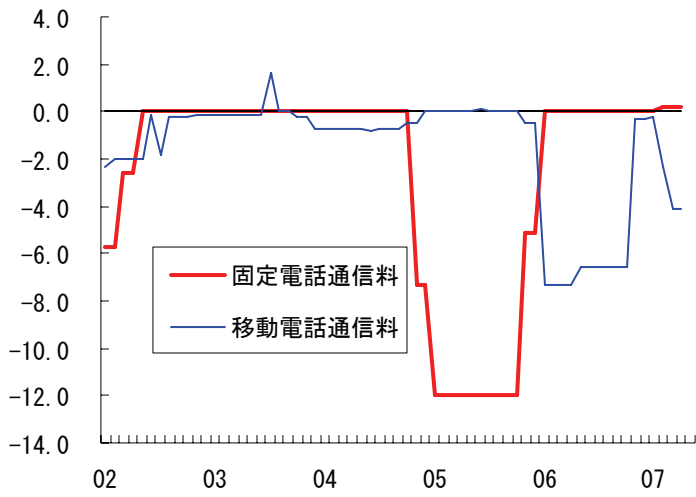
東京都区部の動向から試算すると、5月の全国消費者物価指数（コア）も、前年比▲0.1%が予想される。5月もマイナスの状態からは抜け出せず、4ヵ月連続の前年割れになるだろう。

このところ一部の品目で値上げ報道がみられるようになってきたが、こうした品目が物価全体に占める割合はかなり小さく、上昇圧力は限定的である。昨年の石油製品価格上昇テンポがかなり速かったことなどもあり、CPI全体として上昇に転じてくるにはまだ時間がかかるだろう。仮に原油価格が足元程度の水準で推移すると仮定した場合、消費者物価コアは7-9月期頃までゼロ～小幅マイナスで推移すると予想される。プラスに転じてくるのは10-12月期以降と思われる。

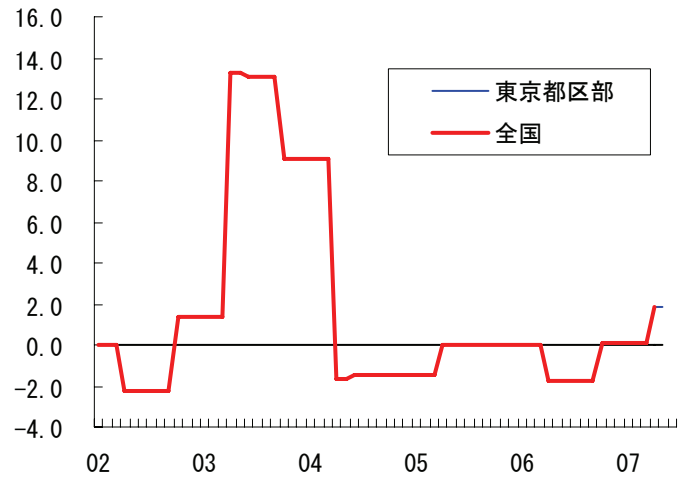


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

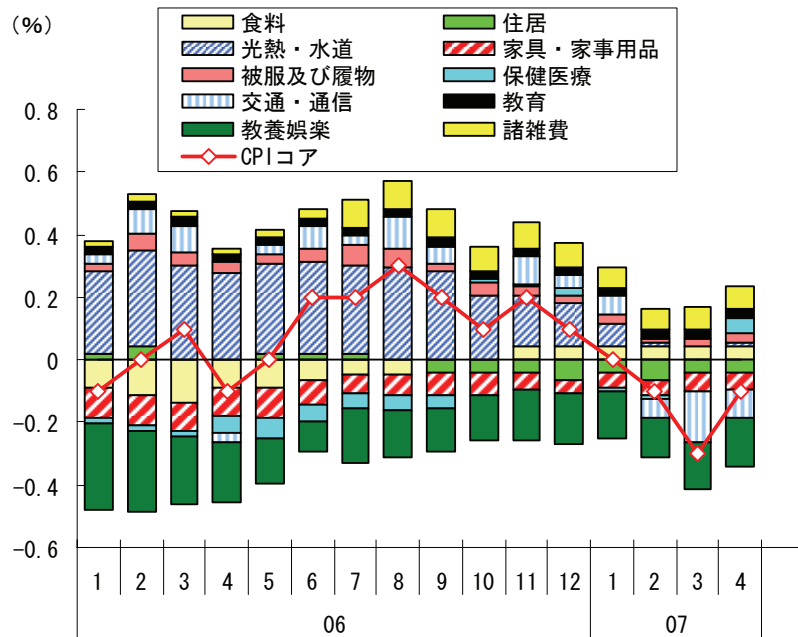
全国消費者物価指数（前年比、%）



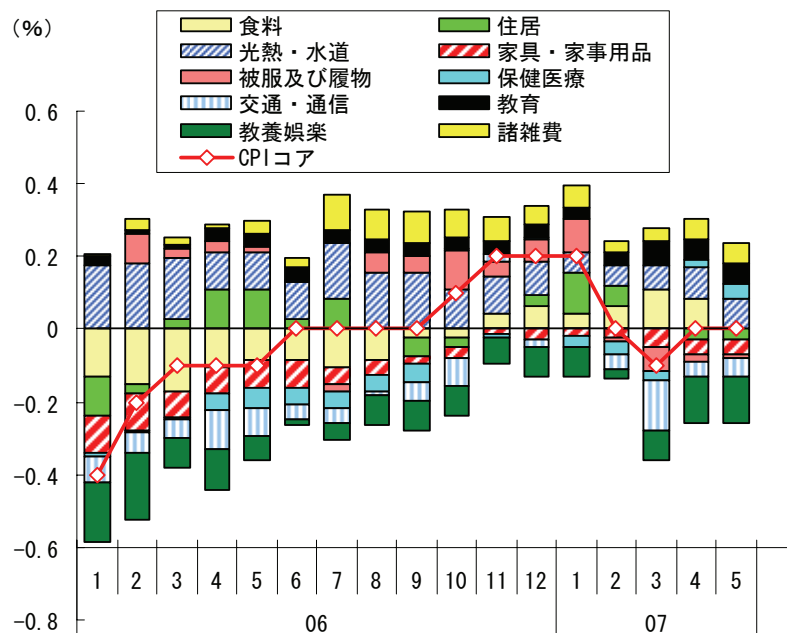
診療代（前年比、%）



全国・消費者物価コア前年比

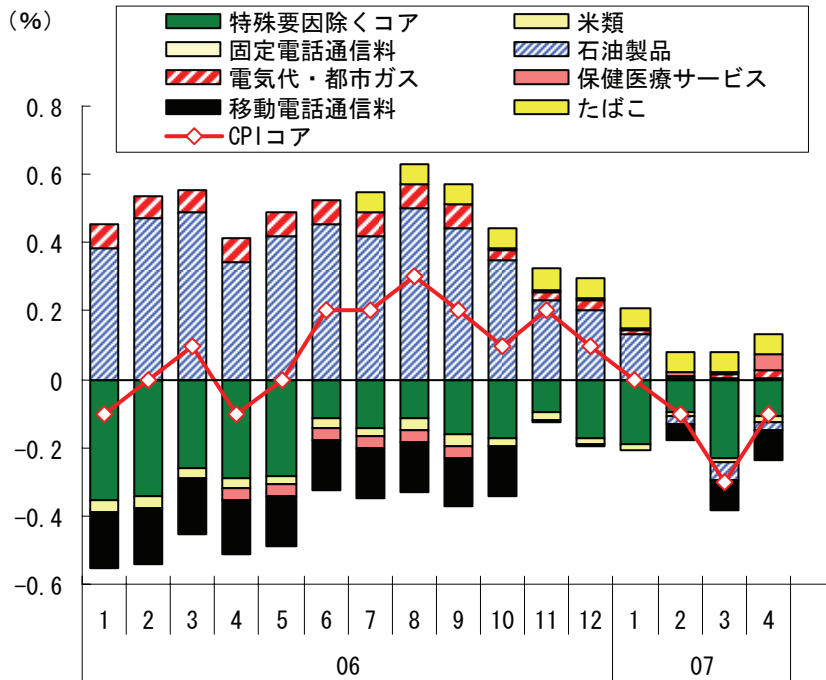


東京都区部・消費者物価コア前年比

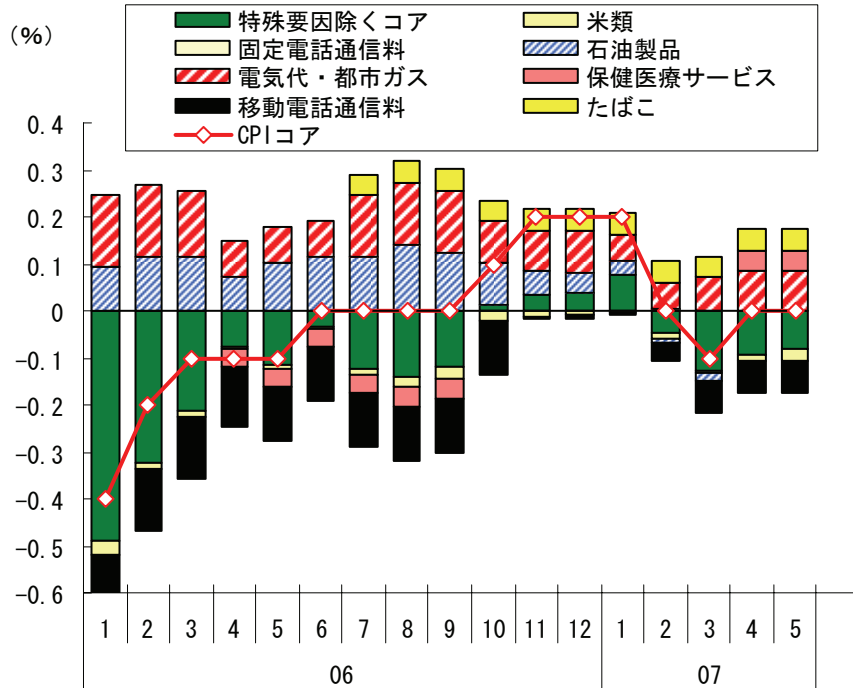


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。